

平成27年度 指導方法等の改善計画について (国語)

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 指示語、接続語に着目して段落相互の関係や要旨を捉えたり、文章中の中心となる語や文を正しく捉えたりする力が不十分である。
- 詩の鑑賞や物語の感想を書く際、理由を挙げて文章を書く力や、目的や必要に応じて理由を挙げて書く力が不十分である。

【取り組んだ事項】

- 指示語、接続語や中心となる語句や文に着目させながら段落相互の関係を考えさせ叙述に即して交流をさせ読み取りを深める。
- 感想文では根拠となる文や引用文を入れて書かせる。話す場面でも、基本的な文型を使わせるようにする。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率

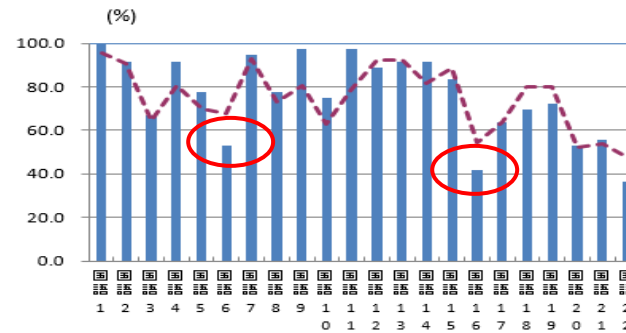
本校	75.9%
県	74.7%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

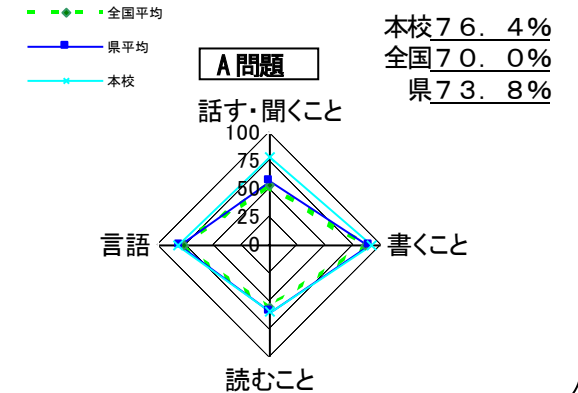
	A問題	B問題
本校	76.4%	71.6%
全国	70.0%	65.4%
県	73.8%	69.7%

「基礎・基本」定着状況調査結果から

設問ごとの平均通過率(国語)



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の通過率は81.2%であるが、辞書を利用して文章中の語句の意味を調べる際、その文章に合う言葉の意味を調べることに課題がある(52.8%)。
- ◎◇ 「書くこと」の平均通過率が64.6%と低く、中でも「目的に応じた記述」は41.7%と低い。取材した内容を書く際、書きたいことを整理して書き表したり、作品の叙述を引用して理由を書いたりすることができておらず、目的や必要に応じて整理しながら理由を挙げて書く力が不十分である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 国語辞典の活用について、国語科に限らず多様な教科において、常に授業中机の上に置いたり、机の横にかけたりして習慣化を図る。辞書引きゲームなどゲーム感覚の学習を入れたり、調べたら再度本文にかえり、文脈に合う意味を確認する所まで行ったりするなど、国語辞典活用の定着を図る。
- ◎◇新聞を書く授業では、取材メモと新聞記事を読んで比較をさせながらメモと新聞の中の文章の関わりを理解させ、文章の書き方をおさえる。また、新聞記事や感想を書く際は、根拠となる文や引用文を入れて書かせるようにしたり、「～ので」、「～だから」という言葉を意識させて書かせたりする。2文を1文にまとめるといった練習も授業で取り上げていく。

来年度の目標値

○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の辞書の利用について平均通過率を65%以上にする。○「書くこと」領域の平均通過率を県平均より5ポイント以上上回る。

中間検証①(H27.12)

中間検証②(H28.2~3)

最終検証(H28.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(中間①) (到達目標値)	成果指標の 評価 ABCD	進捗状況・改善方策	成果指標(中間②) (到達目標値)	成果指標の 評価 ABCD	進捗状況・改善方策	成果指標(最終) (到達目標値)	評価 ABCD
国語科に限らず常時国語辞典を使い習慣化させる。また、調べたら再度本文にかえり、文脈に合う意味を確認させる。	3~6年	文章中の語句の意味を問う問題(自作)の平均通過率を55%以上にする(4~6年)。			文章中の語句の意味を問う問題(自作)の平均通過率を60%以上にする(4~6年)。			「基礎・基本」定着状況調査「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均通過率を65%以上にする。	
新聞記事や感想を書く際は、根拠となる文や引用文を入れたり、「～ので」、「～だから」という言葉を意識させて書かせたりする。	全学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の「書くこと」の問題で平均通過率を60%以上にする(4~6年)。			過去の「基礎・基本」定着状況調査の「書くこと」の問題で平均通過率を65%以上にする(4~6年)。			「基礎・基本」定着状況調査で「書くこと」領域の平均通過率を県平均より5ポイント以上上回る。	

成果指標の評価
 A: 全体として成果指標以上に成果が上がっている。
 B: 全体として成果指標を実現している。
 C: 全体として成果指標を実現していない。
 D: 全体として予定している取組を行っていない。

平成27年度 指導方法等の改善計画について [算数]

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 示された四角形の定義から正しい図形を導き出すことができない。
- 言葉と式を使って説明する問題で、筋道立てて答えられなかったり、言葉だけあるいは式だけで書いていたりしている。

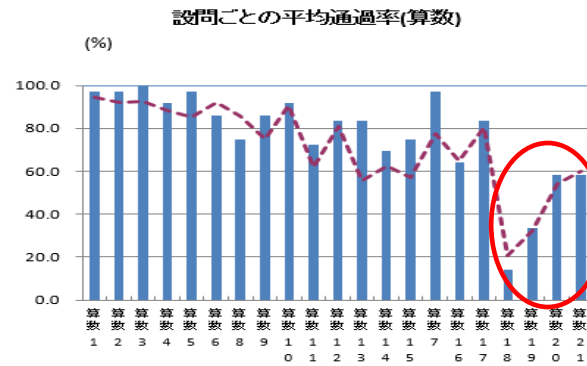
【取り組んだ事項】

- 図形領域において、①系統的な指導②操作活動時間の確保③繰り返し学習④図形環境の整備を行う。
- 自分の考えを説明する場面で、問題解決の過程を式と言葉両方を使ってノートに書かせる。

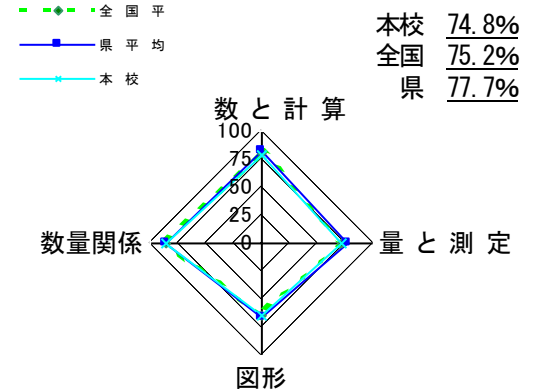
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率	
本校	76.9%
県	71.6%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	74.8%	47.6%
全国	75.2%	45.0%
県	77.7%	46.7%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ タイプI (85.4%) に比べ、タイプIIの通過率が低い(49.2%)。特に、多くの情報の中から必要な情報を整理し、筋道立てて考えることができていない(時刻を求める問題33.3%、グラフから誰の変わり方を表したか求める問題13.9%)。
- ◇品物を買えないわけを筋道立てて答えられなかったり、言葉だけあるいは式だけで解答したりしている(◎通過率33.3%)。目標に達するには3000個のキャップを集めればよい理由を言葉と数を使って表すことができていない(◇19.4%)。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ◎ 問題解決する際に、①必要な情報に印を付けたり、自分の思考の過程を絵や図などに表したりさせる。また、②解決の見通しをもたせた後に、自力解決する時間を確保し、自分の考えをノートに書かせる。そして、③自分の考えを説明させる際には、「まず」「つぎに」「だから」(キーワード「マツだ!」)を使って筋道立てて説明するようにさせる。④説明のキーワードについては、教室掲示物を作成して、児童にも浸透させる。
- ◎◇ 授業中、自分の考えを説明する場面では、①問題を解決する過程を式と言葉両方を使ってノートに記述させた上で発表させる。②筋道立てて説明できている説明例を必ず板書し、自分の説明の足りない表現を付け加えたり、修正したりする活動を取り入れる。また、③ノートのよい例を掲示するなど考え方や解き方の基本型をしっかりと定着させる。

来年度の目標値

○タイプIIの平均通過率を県平均より5%以上上回るようにする。

○言葉と式を使って説明する問題で、平均通過率を60%以上にする。

中間検証①(H27.12)

中間検証②(H28.2~3)

最終検証(H28.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(中間①) (到達目標値)	成果指標の 評価 ABCD	進捗状況・改善方策	成果指標(中間②) (到達目標値)	成果指標の 評価 ABCD	進捗状況・改善方策	成果指標(最終) (到達目標値)	評価 ABCD
問題解決の際に、①必要な情報に印を付けたり、思考の過程を絵や図に表したりさせる。②見通しをもたせた後、自力解決の時間を確保し、自分の考えをノートに書かせる。③「マツだ!」で説明させる。④掲示物を作成する。	全学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の活用IIの問題の平均通過率を55%以上にする(4~6年)。			過去の「基礎・基本」定着状況調査の活用IIの問題の平均通過率を60%以上にする(4~6年)。			「基礎・基本」定着状況調査の活用IIの問題の平均通過率が県平均より5%以上上回るようにする。	
自分の考えを説明する場面において、①問題解決の過程を式と言葉両方を使ってノートに書かせる。②説明例を板書する。③ノートのよい例を掲示する。	全学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の言葉と式を使って答える問題の平均通過率を55%以上にする(4~6年)。			過去の「基礎・基本」定着状況調査の活用IIの問題の平均通過率を60%以上にする(4~6年)。			「基礎・基本」定着状況調査の活用IIの問題の平均通過率を60%以上にする。	

成果指標の評価
 A: 全体として成果指標以上に成果が上がっている。
 B: 全体として成果指標を実現している。
 C: 全体として成果指標を実現していない。
 D: 全体として予定している取組を行っていない。

平成27年度 指導方法等の改善計画について [理科]

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 「地球」領域の方位が関係する学習の通過率が低くなっている。
- 観察や実験の結果などについてその要因や根拠を考察し、科学的な用語を用いて文章で順序立てて正しく説明することができない。

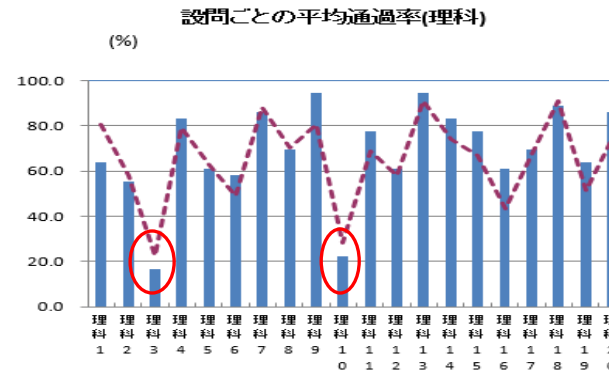
【取り組んだ事項】

- 実際に方位磁針を使って確認させ、方位が自然に実感できるようにする。
- 予想に照らして整理し、考察する学習過程を大切に授業を行う。

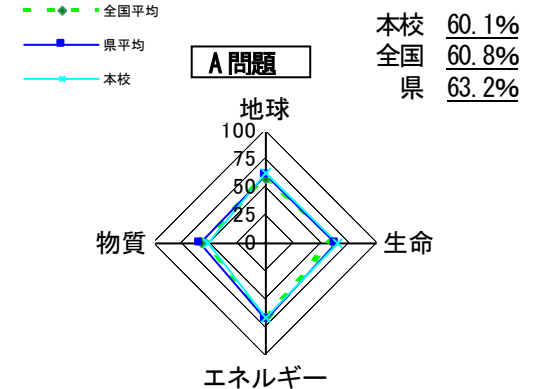
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率	
本校	68.8%
県	65.3%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
本校	60.1%
全国	60.8%
県	63.2%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ 電池・回路・直列つなぎと並列つなぎなど電気に関する学習の通過率が低い(並列つなぎの回路のつなぎ方16.7%)。
- ◇ 実験の結果についてその要因や根拠を考察し、科学的な用語や器具の名前を用いて文章で順序立てて正しく説明することができない児童が多い(示された器具の名前を書く問題47.2%, グラフを基に考察し、その内容を記述する問題27.8%)。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 「エネルギー」領域の学習において、実際に具体物を使って何度も試行錯誤させ、結果が実感を伴うものになるようにする。単元を終えても復習をしたり、教室内に電気回路の掲示物を掲示したりするなど、常に目に触れることができるようにする。
- ◇ 見通しや目的意識をもって実験を行い、その結果を穴埋め式にまとめるのではなく、予想に照らして整理し、考察する学習過程を大切に授業を行う。その際、科学的な言葉や概念、器具の名前を使って考えさせたり、説明させたりする。また、単元末には、その学習で分かったことを、キーワードを使って文章でまとめさせ、評価したり、紹介したりしていく。さらに、指導力を高めるため、指導者の理科に対する関心・意欲を高める。

来年度の目標値

○ 「エネルギー」領域タイプIの平均通過率を県平均より5%以上上回る。

○ 「基礎・基本」定着状況調査で理由を述べる設問の平均通過率を65%以上にする。

中間検証①(H27.12)

中間検証②(H28.2~3)

最終検証(H28.8)

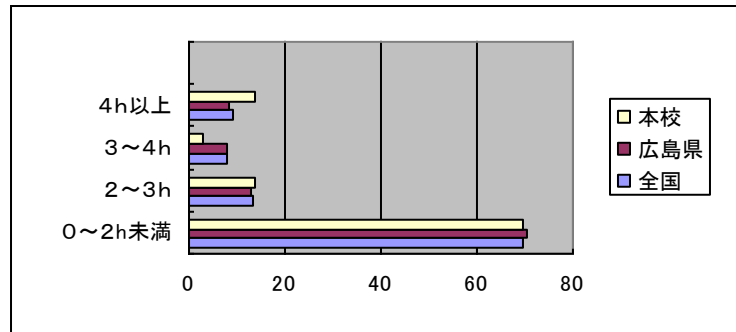
重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(中間①) (到達目標値)	成果指標の 評価 ABCD	進捗状況・改善方策	成果指標(中間②) (到達目標値)	成果指標の 評価 ABCD	進捗状況・改善方策	成果指標(最終) (到達目標値)	評価 ABCD
エネルギーに関わる学習において実験結果を日常生活にあてはめて実感できるようにする。復習の時間や掲示物を工夫し、定着させる。	4~6 学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の電気に関する問題の平均通過率を20%以上にする。			過去の「基礎・基本」定着状況調査の電気に関する問題の平均通過率を30%以上にする。			「基礎・基本」定着状況調査で「エネルギー」領域タイプIの平均通過率を県平均より5%以上上回る。	
見通しや目的意識をもって実験を行い、科学的な言葉や概念、器具の名前を使ってまとめさせる授業を行う。	4~6 学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の理由を述べる問題の平均通過率を55%以上にする。			過去の「基礎・基本」定着状況調査の理由を述べる問題の平均通過率を60%以上にする。			「基礎・基本」定着状況調査で理由を述べる設問の平均通過率を65%以上にする。	

成果指標の評価
 A: 全体として成果指標以上に成果が上がっている。
 B: 全体として成果指標を実現している。
 C: 全体として成果指標を実現していない。
 D: 全体として予定している取組を行っていない。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

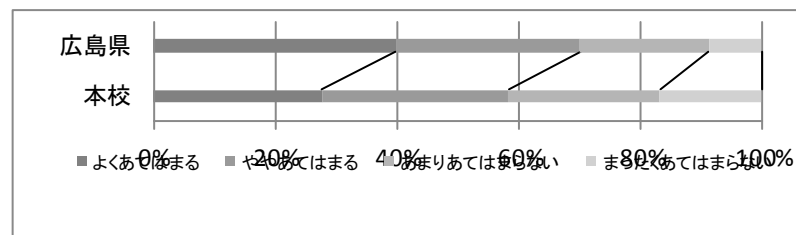
普段（月～金曜日）、1日当たりどれ位の時間テレビゲーム（コンピューターゲーム・携帯やスマホ等のゲームも含む）をしますか。



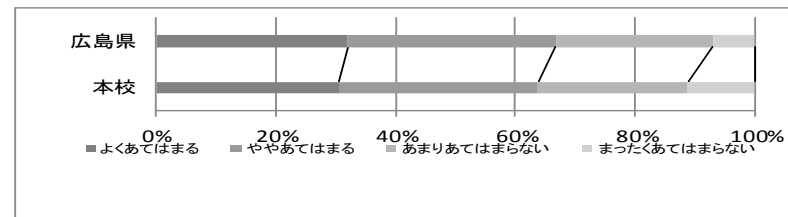
	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	普段（月～金曜日）、1日の家庭学習時間（塾、家庭教師は除く）が1時間以上である児童の割合は83.4%である。県・全国平均よりも高いが、校内の取組目標値より下回った。	本校の普段の家庭学習時間は低学年20分、中学年40分、高学年60分をめやすにしている。「家庭学習がんばり週間」を設け、学習時間や学習内容（宿題・予習・復習・自主勉強）や学習計画の立て方などの指導に取り組み、定着を図る。	全学年	家庭学習が1時間以上の児童95%（5・6年）	児童アンケート	2月		
全国	平日（月～金曜日）の1日あたりのゲームの時間が4時間以上している児童の割合が13.9%で、県平均の8.4%より5.5ポイントも高い。	家庭学習がんばり週間と連動して、ノーメディアも自主的にできるように家庭へ啓発を図る。平日2時間以内のメディア視聴が当たり前になるように、生活振り返りカードや通信を通して意識を高めていく。	全学年	テレビ・ゲーム・インターネット視聴が2時間未満の児童70%以上	振り返りカード 児童アンケート	2月		

(2) 教科

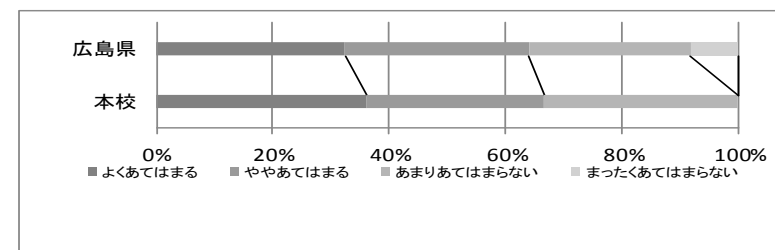
国語の授業では、分からない言葉や漢字は辞書を使って調べています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本	分からない言葉や漢字を辞書を使って調べている児童の割合が58.3%で県平均より11.9ポイント低い。	3年生以上	70%以上	児童アンケート	2月		
	全国	意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している児童の割合が58.3%で低い。	全学年	70%以上	児童アンケート	2月		
算数	基礎・基本	とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明している児童の割合が63.9%で県平均より2.9ポイント低い。	全学年	70%以上	児童アンケート	2月		
	全国	学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童の割合が66.7%で低い。	全学年	70%以上	児童アンケート	2月		
理科	基礎・基本	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている児童の割合が66.7%で低い。	3年生以上	70%以上	児童アンケート	2月		
	全国	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている児童の割合が58.3%で低い。	3年生以上	70%以上	児童アンケート	2月		

